

4. 福島医大における肝胆膵領域ロボット手術に対する取り組みと短期成績」

福島県立医科大学 肝胆膵・移植外科学講座

石亀 輝英

肝胆膵領域癌はあらゆる癌腫の中でもとりわけ予後が悪く、その要因として早期発見の難しさと劇的に効く化学療法が存在しないことが挙げられる。そのため外科手術の担う役割は非常に大きく、手術水準の維持・向上のためのトレーニングおよび新規医療技術のアップデートは欠かせない。そのような中、肝胆膵外科領域にもロボット支援下手術の普及が進みつつある。ぶれのない3D拡大視効果は局所解剖のより深い理解につながり、また正確な関節運動の再現は、緻密な操作を必要とする場面が多い肝胆膵

手術とは相性がいい。当施設では厳しい施設認可をクリアして2021年5月にロボット支援下膵体尾部切除術(RDP)を、2022年9月にロボット支援下肝切除術(RLR)、2023年7月にはロボット支援下膵頭十二指腸切除術(RPD)を導入し、これまでに23例のRDP、13例のRLRを4例のRPDを経験している。現時点では手術時間に多少の延長はあるものの、これまで腹腔鏡下手術で積み上げた当科の経験をもとに、安全に導入でき開腹手術と比較すると術後在院日数は短縮した。今後チームとしての習熟度を高め、手技の定型化が進めば、手術時間の問題は解消されていくであろうし、低侵襲かつ根治性の高い手術が可能となるだろう。